

# A-1 湯ヶ島中心部

## 旧居跡(土蔵)・上の家・旧湯ヶ島小学校周辺

### 1 旧湯ヶ島小学校跡 (天城温泉会館)

洪作が通っていた小学校は、昭和4年に現在の位置に移転しました。当時の場所は現在、天城温泉会館となっています。その駐車場入口には「明治百年記念 湯ヶ島尋常高等小学校跡」の石碑が建っています。

(天城温泉会館 TEL.0558-85-2222)



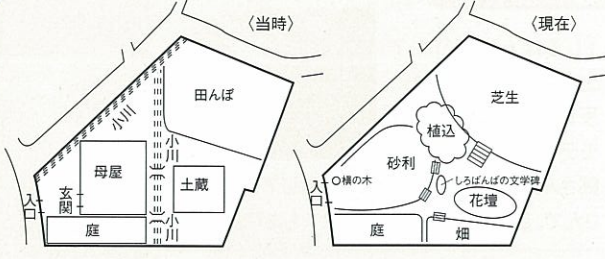
### 2 馬車の駐車場跡 3 すのこ橋

大正8年にバスが開通するまでは、当時の人々にとって、沼津や三島に出かけることは大旅行でした。馬車の駐車場は、いつも見送りや出迎えの人々にぎわい、子どもたちは、馬車を追いかけてすのこ橋まで走りました。現在のすのこ橋は、昭和37年に架け替えられたものですが、橋の上流側すぐのところ、今も、当時の橋の基礎部分が残っています。



### 4 井上家旧居跡

洪作がおぬい婆さんと暮らした土蔵跡は、井上家旧居跡の敷地内にあります。土蔵は老朽化に伴い昭和28年に取り壊され、現在は花壇となっています。医者に貸していた母屋の方は、昭和の森会館に移築され展示されています。かつて母屋があった場所の一番奥には文学碑があり、表側には井上靖の自筆で『しろばんば』の冒頭が、裏側には大岡信の『しろばんばの碑に題す』が刻まれています。



しろばんば 井上靖  
その頃、と言っても大正四、五年のことで、今から四十数年前のことだが、夕方になると、決まって村の子供たちは、口々に「しろばんば、しろばんば」と叫びながら、家の前の街道をあつちにして走ったり、こつちを走ったりしながら、夕開のたちこめ始めた空間を、綿屑でも舞っているように浮遊している、白い小さい生きものを追いかけて遊んだ。



### 上の家のある四つ辻

本家の「上の家」は、土蔵からすぐのところにあります。この四つ辻には、雑貨屋や御料局もありました。これらの建物には、現在も生活している方がいるので、静かに見学しましょう。

5 上の家 母七重の実家である上の家は、なまこ壁が目印です。祖父文太、祖母たね、叔母のさき子などが住んでおり、洪作は、土蔵と上の家の間を一日に何度も行ったり来たりしました。土蔵とともに最もよく作品に登場する場所の一つです。



6 御料局 所長さんの娘あき子が住んでいた御料局(帝室林野管理局天城出張所)は、現在は伊豆森林管理署となっています。その正門前は子どもたちの遊び場でした。



7 雑貨屋 雑貨屋は、洪作と最も仲がよかった幸夫の家です。現在も浅田金物店として営業しています。



# A 湯ヶ島

湯ヶ島は、中心部と周辺部に分けられます。主なスポットは中心部に集中していますが、時間があれば、少年たちが一気に駆けつけたという周辺部のスポットを組み合わせてみるのもよいでしょう。

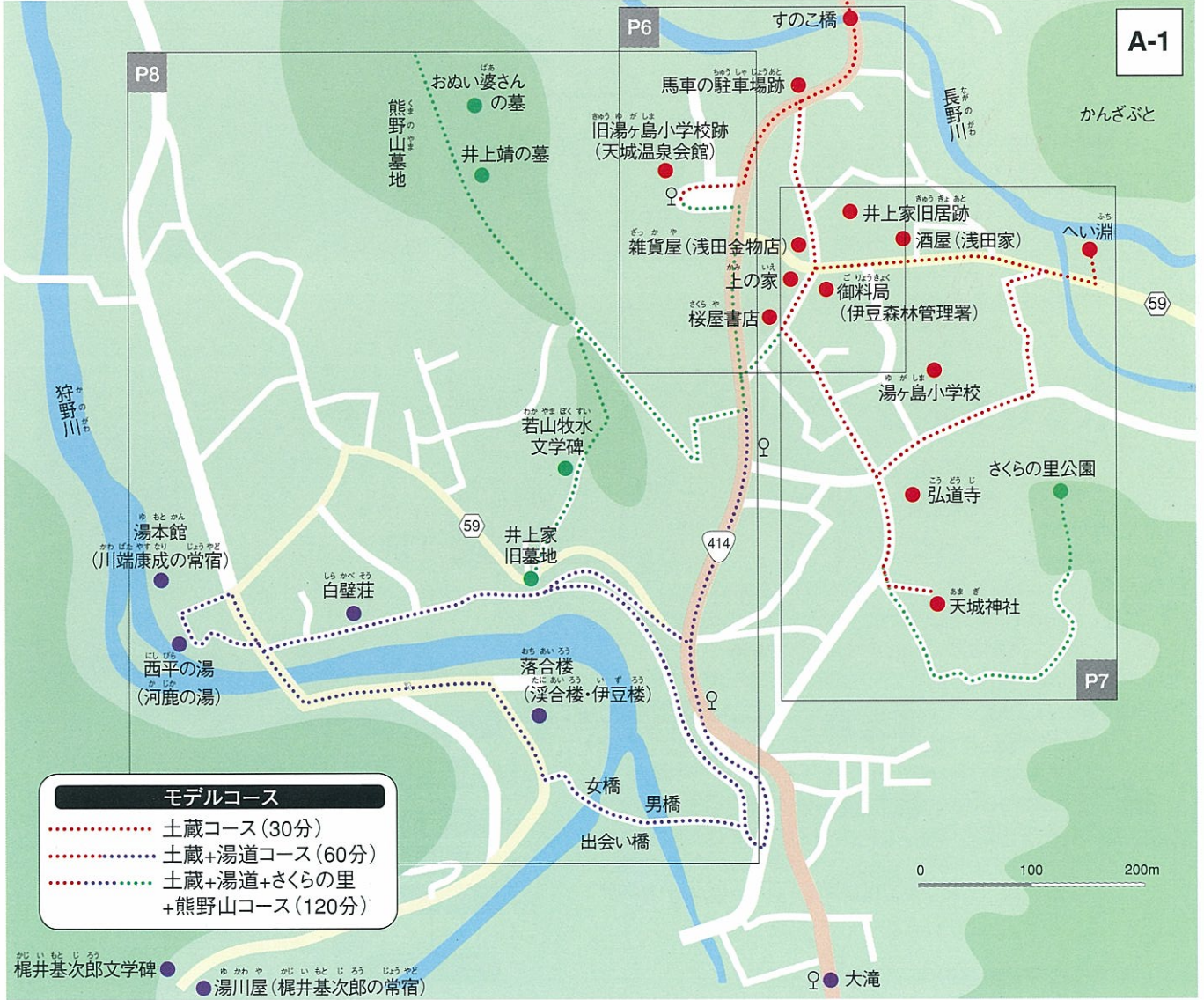
西は草競馬が行われた後場、東は椎茸爺さんが住んでいた棚場、北は校長先生をしていた伯父の家がある門野原、南は当時の子どもたちもあこがれた天城峠の旧トンネルなどがあります。

## 湯ヶ島中心部

「しろばんば」に登場する子どもたちの日常の行動範囲は、湯ヶ島の中心部、約1km四方です。特に、洪作たち久保田地区の子どものための守備範囲は、旧湯ヶ島小学校(現在の温泉会館)から約300m以内で、土蔵跡、上の家などの見どころがあります。それらに現在の湯ヶ島小学校や天城神社などを含めても、徒歩30分程度で気軽に回ることが出来ます。《土蔵コース》

さらに、叔母のさき子たちと出かけた西平の共同湯(河鹿の湯)がある湯道方面《湯道コース》、作者井上靖やおぬい婆さんが眠る熊野山墓地、「しろばんば」の舞台を一望できるさくら里公園《さくら里コース》など、他にも見どころがいっぱいです！

持ち時間に応じて、各スポットを自由に組み合わせる散策することが出来ます。バス停や広い駐車場がある温泉会館をスタートして、あなたも、洪作や幸夫たちに出会うために歩いてみませんか。



モデルコース	
●●●●●	土蔵コース (30分)
●●●●●	土蔵+湯道コース (60分)
●●●●●	土蔵+湯道+さくら里+熊野山コース (120分)